GK607A GHD TELEGRAPH KEY 取扱説明書

この度は、スーパーメモリーキーヤーGK607Aをお買い上げいただき、誠に有り難うございました。
ご使用の前にこの取扱説明書を良く読んでください、特に(注意事項)はお守り下さい

1. GK607Aの特徴

①ダブルレバーのパドル GN607Aシリーズのキーに6CHのメモリーキーヤーを内蔵しました。
②キーヤーはアイアンビックモード(通称エレキー)の他にエレバグモードがあり、任意の長さの長点が出せます。
③エレバグモードでは、短点と長点との間のスペースが、規定の長さ(短点1つ分)に自動的に補正されます。
これにより、エレキーの気軽さで、バグキーライクな符号が打ち出せます。
④アイアンビックモードとエレバグモードは、モード切替スイッチで簡単に切り替えられます。
(アイアンビックモードでは、左右のツマミの同時押さえで、短点と長点の交互連続符号が出ます)
⑤再生中に割り込みが可能(再生中に一旦停止が出来、 キー操作が出来ます)
⑥通常の操作の他に付加機能設定として、自動CQモード、リピートモード(①全CH、②CH3とCHCのみ)など
アッドファンクションを付加設定できます。
⑦パドル反転スイッチにより左手操作用に直ぐに切り替え出来ます
⑧メモリーは不揮発性であり、電池を交換しても、内容が消えません。
⑨単四電池2本で動作し、オートスリープ機能の為電源スイッチレスとなっています。

2. 使い方

2.1 準 備

まず電池が入っていることを確認します。 電池は単四が2本です。(出荷時実装)
交換時は電池の向きに注意します。
次に、キー出力端子をリグ(送信機)又はモールス練習機等と繋ぎます。
尚リグのキー端子はストレートキー(縦振りキー)にします。

2.2 アイアンビックモードでのオペレーション

右上のモード切替スイッチをE KEY(エレキー)にします。 これでアイアンビックモード(通称エレキー)になります。
動作は、一般的なエレキーヤーとなります。(通常の右手操作の時は親指が短点、人差し指が長点となります。
左右ツマミの同時押えで、短点と長点の交互連続符号が出ます、この事をスクイズ操作と言います、弊社ホームページでスクイズ操作の詳しい解説や動画による説明もあります)
モニターの音はリグのサイドトーン又はモールス練習機の音を使います。
スピードツマミで、好みのスピードに合わせて操作します。

2.3 エレバグモードでのオペレーション

モード切替スイッチをE BUGにします。これでエレバグモードの動作になります。
長点パドルを長く押して、ながーい長点が出る事を確認します。長点は任意長で、短点とスペースは自動で整

えられます。長点と短点の間のスペースや長点同士の間のスペースは、パドル操作が短すぎても、きれいに調整された信号になります。（一般的なセミエレキーと違い、綺麗な符号が出ます）
ダブルレバーのパドルでも、後押しレバーが優先しますので、動作はシングルレバーと同じになり、このモードでの操作が大変し易くなっております。（本機の特徴の一つで画期的です）

2.4 左手での操作

左側面の パドル反転スイッチ を手前にすると 通常の右手操作(親指で短点、人差し指で長点となります)
このスイッチを後側にすると 短点、長点が逆になります。
(左手操作の時必要に応じてお使い下さい)

3. メッセージメモリーの使い方

3.1 メモリーチャンネル

メモリーチャンネルは、6つのチャンネルあり、3個のプッシュスイッチ A、B、C、と左上の CH シフトスイッチ を用いて操作します。
CH シフトスイッチ を上にすると CH1 から CH3 までとなり 下側に倒すと CHA から CHC までになります。

3.2 メッセージの記録

メッセージを記録する時は、各チャンネルのプッシュスイッチを2秒ほど長押します。
すると、キーヤーから“R”が出力されるので、これが聞こえているうちに手を離してください。
するとさらに、“BT“が聞こえます。”R”と”BT”は、通常、違ったスピードで聞こえます。”BT”のスピードが、現在のスピード設定つまみの位置によるものです。
“BT”の後、パドルを操作してメモリーにメッセージを入力（記録）します。
エレバグモードの場合はエレバグの信号が、アイアンビックの場合はアイアンビックモードで記録されます。
(メッセージ記録中に、モード変更は出来ません)
文字間、ワード間のスペースも、操作した通りの長さで記録されます。（最大で短点40個分）
メッセージ記録が終わったら、もう一度プッシュスイッチ（どれでも良い）を押してください。
すると、キーヤーは“AR”をモニターから出して、メッセージ記録を終了します。
メモリーが一杯になると、キーヤーは勝手に“AR”を出してメッセージ記録を終了します。

3.3 メッセージの削除

記録したメッセージを削除したい場合は、“BT”のあと、何も入力しないでプッシュスイッチを押します。キーヤーは、“T“の音を出して、そのチャンネルのメモリーを削除します。
入力で間違った場合は、プッシュスイッチを押してメッセージの記録を一旦終了し、上記の操作で削除するか、上書きします。

3.4 メッセージの再生、停止

メッセージを再生するには、各チャンネルのプッシュスイッチを短く押します。
（長押しすると、メッセージの記録になってしまい、前の記録が消えてしまいます）
スイッチを離したら、すぐに再生が始まります。記録したときのモードで再生されます。

再生後は自動停止します。
再生を途中で止めるときには、長点パドルを一度押します。(CH1 と CH2 の同時押しでも可)
再生しようとした、メモリーが空の場合は、キーヤーは“T”を出します。

3.5 再生中の割り込み

メッセージの再生中に、どれかプッシュスイッチを押すと再生が一旦停止し、キー操作が出来ます。
更にもう一度どれかのプッシュスイッチを押すと再生を継続します。
(工夫次第で面白い使い方が出来ます)

4. メモリーのサイズ

記録できる文字数は、モード、入力する符号、スペースの長さによって変化します。次の記録文字数が各チャンネルの目安です。 (アイアンビックモードで、6 つのCH合計で最大約 4, 500文字)
アイアンビックモード: およそ750字
エレバグモード: およそ375字

(注意事項)

- 製品のデザイン、仕様等は、予告無く変更することがあります。
- リグのキー入力はストレートキー用にして下さい。
- GK607A には、モニタースピーカーはありません。リグ(送信機)のサイドトーンによりモニターしてください。
- キー出力は半導体スイッチです(プラスキーイング) リグ等と接続する時極性に注意してください
- GK607A を真空管式リグに直接接続する事は出来ません。 (キー端子に高圧がかかっているためです)
  真空管式リグに接続する時はリードリレーの接点で中継してください
- 長く使わない時は電池を外してください、電池は液漏れする事が有ります、1 年に 1 度は電池の交換をして下さい。
- パドルの分解やプリント基板は取り外さないで下さい。(専用の冶具や専門の技術で組み立てています、その為分解すると初期の性能が発揮出来なくなります)

接続の応用例

本機のキー出力端子に並列に縦振りキーやバグキーなどのキーを繋ぐと本機のエレキーやエレバグと縦振りキー等との即座の運用が何の切り替えも無しに出来ます。
一般的なリグ内蔵のキーヤーではエレキーと縦振りキーとの即座の運用は出来ない事が多いです。
本機を使用する事によって CW 運用の幅が広がり,ハムライフが楽しくなります。

GN607A　付加機能（アッドオンファンクション）の設定

付加機能（アッドオンファンクション）として、次の３つのモードを設定することができます。
必要に応じて設定し、活用して下さい、(通常のメモリーキーヤとして使う時は必要ありません)

①自動ＣＱモード：　ＣＨ１のみで設定可能で、自動で一連のＣＱを2回出力する。
②リピートモードＡ：　全ＣＨで、記録したメッセージを繰り返し出力できるようになる。（Ａ：All）
③リピートモードＳ：　ＣＨ３とＣＨＣで、記録したメッセージを繰り返し出力できるようになる。（Ｓ：Selected）

●各モードの設定手順は、次ページのチャートのようになります。

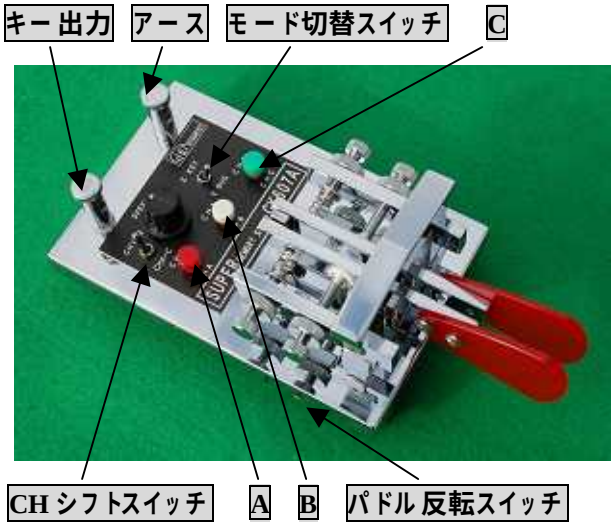
下記は自動 CQ モード設定の例です、自局のコールサインが未入力の場合は、次のようになります。

① スイッチ [B] とスイッチ [C] を長押しします。“C BT”が聞こえたらスイッチから手を離します。
② 自局のコールサインをパドルの操作で入力します。（何も入力せず A、B、C、のいずれかのスイッチを押すと、モニターから”T”が出て、入力されたコールサインは削除されます）
③ スイッチ [A] を押します“ＡＲ”が出ます。
これでコールサイン入力は終わりました。

次に、CH1 に自動ＣＱモードの設定をします。

① [CH シフトスッチ] を上側（CH1-3）にします。
② スイッチ [A] と [B] を同時に長押しします。“?”が聞こえたらスイッチから手を離します。
③ スイッチ [A] を長押しし“R”が出たら手を離します。（これで設定完了です）
④ 再度スイッチ [A] を押すと自動 CQ が出ます。
⑤ 設定を解除するには上記①と②を行い③でスイッチ [A] を短く押します。”N”が出て、設定が解除されます。

(チャートと照らし合わせてご理解下さい)



付加機能（アッドオンファンクション）の各モードの設定手順

①スイッチ A とスイッチ B を同時に長く（2秒位）押す→モニターから“？”が出たらスイッチから手を離す。

② 次 に

アッドオン ファンクション	押すスイッチ	スイッチを長く押す（2秒位） ファンクションＯＮ	スイッチを短く押す ファンクションＯＦＦ
自動ＣＱ（CH1 のみ）	スイッチ A	自動で一連のＣＱを 2 回出力	解除
リピードモードA	スイッチ B	全 CH とも リピートモード	解除
リピードモードS	スイッチ C	ＣＨ3 と CHC が リピートモード	解除

モニターから“R”　　モニターから“N”

③設 定 完 了

（注意事項）

- ＣＨ に記録したメッセージの送出が完了していない時やＣＨボタンを押して一時停止している時に、別のＣＨに記録したメッセージを送出することはできません。長音パドルを押して送出を中止するか、メッセージ送出の終了を確認してから、送出したい ＣＨボタンを押してください。
- ＣＨ1 が自動ＣＱモードに設定されている場合、リピートモードＡに設定しても、ＣＨ1 はリピートモードにならない。（自動ＣＱモードが優先）
- リピートモードでメッセージを記録するときは、信号の終了から、プッシュスイッチを押して記録を終了するまでのスペース（空白時間）も記録されます（最大で短点40個分）。リピートの間隔を設定するためです。
  （リピートモードＡ、Ｓとも同じです。）
  リピートモードでない場合は、信号の終了からプッシュスイッチを押すまでのスペースは、メモリーへの書き込み時に削除されます。

(別のファンクションに設定する時は基本的に前のファンクションは解除して下さい,解除しないと複雑な動作となります)

株式会社 GHD キー

〒981-3326 宮城県黒川郡富谷町明石字下向田 24-14

Tel：022-779-0681　Fax：022-779-0682